

1. 総括

令和6年度は、引き続き「生きにくさを抱えた人と社会をつなぐハブ的な役割」を目的として、介護サービス包括型で日中サービスを提供した。日中支援で生活面、余暇面での利用者のニーズに応えることで精神的に安定した利用者が増えた。その結果、日中支援をベースとした手厚い支援が必要な利用者と、生活がほぼ自立していて普段は世話人と接点のない利用者が極端にわかれることとなった。しかし接点のない利用者への健康観察や潜在的なニーズの把握、困った時には気軽に声をかけてもらえる関係づくりは必要があると思われる。今後は GH 側から接点を作っていく行為が求められると感じる年度だった。また、6か月に1度のモニタリングを実施し、個別支援計画を作成、地域の中で協力をしながら自分らしく生活ができるように必要な支援をした。

令和6年4月からの報酬改定を受け、短期入所サービスの終了、利用者へ区分取得を推奨、区分更新面談への同席、支援加算の取得、食費など利用料の見直しによって収益の改善に取り組んだが、利用者数の不足により大幅な赤字を計上することとなった。

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用者数	336	370	330	341	341	330	341	341	372	327	325	372	4126
1日平均利用者数	11.2	11.9	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.3	12.0	12.0	11.6	12.0	11.4

3. 担当職員

管理者 1人

サービス管理責任者 1人

世話人 9人、生活支援員 2人

4. 年間支援実施内容

健康管理

- ・症状や状況に応じて通院同行を実施した。
- ・毎日検温をして引き続き新型コロナウイルス感染の予防をした。
（発熱時は抗原検査で確認をした）
- ・本人やご家族の希望に合わせお薬を預かり、定時服薬の支援をした。

食事の提供

- ・栄養を考えたバランスの良い食事の提供を心掛けた。
- ・食料価格高騰に対応するため、食費を月次請求から利用日請求へ変更。
- ・食料価格高騰に対応するため、利用者の意向を確認したうえで外食デイを廃止。

- ・新規GH契約者には契約時にアレルギーの有無や嗜好の聞き取りを行った。

生活支援

- ・調理、洗濯、掃除を一緒に行いながら家事支援を行った。
- ・利用者のニーズに合わせた定期的な整理整頓のサポートを行なった。
- ・家電の買い替えの同行や、設置の手伝いを行なった。
- ・利用者のニーズに沿った買い物支援を行った。
- ・世話人室で軽作業を行うことで、在宅支援として工賃がもらえるしくみをつくった。
- ・市役所や銀行などの手続きを一緒に行った。

相談支援

- ・友人関係での悩みや、生活の中で困っていることの相談にのった。
- ・世話人室で茶話会を行い、利用者さんと話せる機会を増やした。
- ・様々な日中活動や余暇活動に参加したことで、心理的な不安や発作が減少した。

環境整備

- ・短記入所サービスの終了に伴い、ベルコーポのシェア部屋の壁を撤去し改修。

防火管理

- ・年間2回の防火設備点検を行った。
- ・鹿沼市消防署の指導により防災カーテン、カーペットへの切り替えを行った。

5. 職員研修・支援会議

職員研修

- ・職員全体研修（虐待防止研修）

支援会議

毎月第4火曜日9：30～から世話人による支援会議を開催。

GHでの入居者の様子について共有し、意見交換を行った。モニタリング計画に基づいて、個別支援計画の策定を行った。

苦情解決・事故・ヒヤリハット報告

- ・事故防止のために、ヒヤリハット報告書は小さなことでも報告するように心がける。
- ・苦情0件

虐待防止

- ・日々の声かけ目配りにより、未然防止に努めます。
- ・研修会に参加し、職員間で情報共有する。

6. その他

契約書、重要事項説明書、GH利用のしおりの変更

- ・事業所名変更（ベルコーポ → CCVグループホーム）
- ・家賃、食費、交通費の変更
- ・支払方法の変更（銀行口座引き落とし）
- ・防災設備の変更